

ゴーヘッドズ 速報

Goaheads

第21号 平成26年8月31日

相手の四球に付け込めず・・・

二回の攻撃が勝負を決めた・・・

	1	2	3	4	5	6	7	R
G	0	0	0	0	0	0	1	1
I	0	0	2	1	2	1	×	6



8/31(日)8月負けられない戦いが続く最後のカード、Victoria予選最終節を大宮健保に向き、漁火と行った。過去、二度の降雨による延期となったカードだけに、無事、今日のゲームを行う事が出来て、先ずはほっとしているが、今日のゲームで決勝T進出が掛かっているだけに、何とか勝利を物にしたい、そんな気持ちでゲームは始まった。先攻は我がチーム。しかし、初回は三者凡退、先発は最近安定している達脇が上がった。先頭を空三振に斬る上々の立ち上がり、しかし、二番にはレフトオーバーの2ベースを放たれ、場面は先制のピンチに、しかし、後続を中飛に斬り、二死二塁、次打者は内野安打で出塁させたが、後続を遊ゴロに斬り初回を0封発進とした。その裏の攻撃、先頭、次打者と二連続四球を選択し出塁、続く打者の内野ゴロの間に、走者がそれぞれ進塁しチャンスと化す。しかし、後続二打者が凡打に倒れ、絶対的チャンスを0点としてしまった。ゲームが動いたのは3回の相手攻撃、先頭を三ゴロで一死としたが、後続3打者に死球と2四球でピンチとなった。この中でWPで1失点、そして、内野ゴロの間に2点目を献上し2点を許してしまった。翌4回にも四球で出した走者を1本の安打と内野ゴロで3点目、5回にも四球で溜めた走者を1本の安打で2点が追加、更に6回にも四球3個で拳句にはホームスチールを許し1点を追加された。最終回には、1本の安打と3四死球で1点を返したが万事休す。残念ながら、今期も予選敗退でVictoriaの戦いに幕を閉じた。

振り返ると、やはり打線・・・

肝心な場面でのゴロは必須、それが出来たチームと出来なかったチームの差が、今日のゲームの差で有る事は明確。如何なる時でも、スイング軌道が一緒の我がチーム、しかし、場面において絶対にゴロが必要な場面での相手のスイングは、軌道が絶対にゴロを打つ、という形になっていた。やはり、この辺の工夫が出来ない限りは、更なる高みには行けないのだな、と感じた。

最後に、負けはしたが正々堂々と戦った我がチームの戦いは、これからも続けていきたい。口は災いの元とは良く言ったもので、相手の野次は聞き捨てならない、草野球だからといって、決して許されるものではないし、他人のフリ見て、改めて美しくないそんな下種な事は我がチームはしない、と感じた内容であった。如何なる時でも、相手に対し敬意を表せるチームで今後も有り続けたい！